

2017年度 首都大学東京 数電機シンポジウム

Mathematics in the *Real* world 8

日 時 2017年12月13日(水) 18:00~19:00

会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 1号館110室

講 師 小谷 元子氏 東北大学教授, 材料科学高等研究所所長

題 目 『数学による新しい材料科学への挑戦』

理工学研究科数理情報科学専攻・電気電子工学専攻・機械工学専攻の3専攻では、平成21年度から23年度に文部科学省支援の下で実施された組織的な大学院教育改革推進プログラム『理工横断型人材育成システムの再構築』に引き続き、理工学研究科の支援をうけ教育改革推進プログラム『数理科学を基盤とした理工横断型人材育成システム』を実施し、その一環としてこれまでに7回のシンポジウムを開催してきました。

本年度は、数理情報科学専攻の前身である東京都立大学理学研究科数学専攻を修了し、学界で活躍されている小谷先生をお迎えした数電機シンポジウムを開催します。

講演概要：

日本が世界をリードしてきた材料科学・材料開発において、最先端の技術により原子・分子を観測・制御することが可能になり、求められる機能を実現することが課題となっている。そのためには、ミクロレベルの構造とマクロレベルの物性や機能の間の関係へのより深い理解が必要であり、数学による原理の抽出、機能と構造の相関理解、数学モデルにもとづく合成への指針などへの期待が高まっている。東北大学AIMRでは世界にさきがけ、数学と材料科学の連携により新しい材料科学への挑戦をおこなってきた。萌芽的な結果についてご紹介したい。

本シンポジウムは、ミニ研究環「超並列化が拓く他分野融合計算科学の新描像」主催「ICTイノベーションセミナー」との連催です。是非、16時20分から開催されるICTイノベーションセミナーに引き続き、ご参加下さい。

主催：首都大学東京大学院理工学研究科教育改革推進プログラム
数理科学を基盤とした理工横断型人材育成システム
(代表：数理情報科学専攻 小林正典)
首都大学東京大学院 理工学研究科
数理情報科学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻

